学校番号	３０４

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『詳説世界史探究』　（山川出版社）						
副教材等	『グローバルワイド最新世界史図表』（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史演習では、世界史探究で十分に扱うことが難しい中世後期から近代までについて学習していきます。その際、単に歴史事項を羅列して覚えるのではなく、何故このような事が起こったのかという歴史的思考力を養ってほしいと思います。またその際、地図や史資料の読み取りが多くなりますので、様々な資料に触れて広い視野と深い教養を身につけてほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第7章　ヨーロッパ世界の変容と展開	1.西ヨーロッパの封建社会とその展開 2.東ヨーロッパ世界の展開 3.西ヨーロッパ世界の変容	a. 中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。 ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解している。 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。 b. 中世都市の景観を示す図像資料や当時の交通路を示す地図をもとに、十字軍が西ヨーロッパに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 西ヨーロッパやイスラーム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。 大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。 c. 中世の西ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表、 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 探究活動の記録、発表、 主体性レポートの内容

	第９章　大交易・大交流の時代	1 アジア交易世界の隆盛 2 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容	a. 「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。 b. 「南蛮屏風」などの図像資料や鄭暁『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c. アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表、 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

	第10章 アジア諸帝国の繁栄	1．オスマン帝国とサファヴィー朝 2．ムガル帝国の興隆 3．清代の中国と隣接諸地域	a. オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。 清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。 b. オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的･多角的に考察し表現している。 ムガル帝国時代の細密画などの図像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的･多角的に考察し表現している。 皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。 c. オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問,追究してみたいことなどを見いだして,見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、発表、 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

2学期	第11章近世ヨーロッパ世界の動向	1．ルネサンス 2.宗教改革 3.主権国家体制の成立 4.オランダ・イギリス・フランスの 台頭 5.北欧・東欧の動向	a. ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。 オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。 北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。 b. 美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。 「九十五カ条の論題」や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。 覇権争いの経過や「権利の章典」などの資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。 ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国におよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 c. ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 主権国家体制の成立について、自分が	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述、 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

			抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 北欧・東欧の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			

	第14章アジア諸地域の動揺	１．西アジア地域の変容 ２．南アジア・東南アジアの植民地化 ３．東アジアの激動	a. オスマン帝国の弱体化に伴う「東方問題」の構造的問題を理解し、それによるエジプトをはじめとした西アジア地域の新しい動きについて理解している。 南アジア・東南アジアにおける欧米諸国の影響やそれによる現地社会の変化について理解している。 b. 諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 オスマン帝国の改革方針を、「ギュルハネ勅令」や「ミドハト憲法」などの資料をもとに考察し、その結果や影響を多面的・多角的に理解している。 イギリスによるインドの植民地化が与えた影響について、特に綿織物と綿糸の輸出入を表したグラフをもとに理解し、政治・経済・文化などの多角的な視点から南アジアの変容について理解している。 c. 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 欧米諸国の進出によって諸地域が受けて影響について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述、 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 主体性レポートの内容

3学期	第15章帝国主義とアジアの民族運動	1．第 2 次産業革命と帝国主義 2．列強の世界分割と列強体制の二分化 アジア諸国の変革と民族運動	a. 第 2 次産業革命により欧米諸国による世界分割が加速したその構造と影響を多面的・多角的に理解している。 b. 列強の帝国主義による世界分割と、連合国・同盟国の二大陣営の形成過程について、多面的・多角的に理解している。 列強の進出・植民地化により、アジアやアフリカ地域での民族運動が活発化し、第一次世界大戦後の国際秩序形成に影響を与えたことを、多面的・多角的に理解している。	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述、 定期テストの結果	学習状況の観察 探究活動の記録、 定期テストの結果	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度